

# 平成 25 年度第 1 回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

(文責：事務局)

日 時：平成 25 年 8 月 26 日（月）午前 10 時～正午

場 所：愛知県自治センター6 階 会議室 I

出席者：委員 12 名（代理含む）、

オブザーバー 2 名、事務局（愛知県地域振興部長、沿線市担当課長 他）

## （開会）

### 1 あいさつ

#### ○愛知県地域振興部長

おかげさまで、リニモの利用状況については、年々着実に利用者数を伸ばしている。

本県では、愛・地球博記念公園や知の拠点あいちを整備し、沿線施設の充実を図っているほか、沿線市と連携し地域住民や学生が行う様々な事業を支援するなど、リニモ沿線地域の一層の活性化に取り組んでいる。

また、沿線各市の努力により、市街地開発も一部進展を見せており、特に長久手古戦場駅ではイオンの、公園西駅ではイケアジャパンの進出が決定するなど、大規模な商業施設の立地により、ますますリニモ沿線地域を訪れる人が増えることが期待されている。県としても、開発に係る法手続きが円滑に進むよう調整を図るなど、全庁をあげてバックアップしている。

このように、地域に賑わいが生まれ、あるいはこれから生まれようとしているところであるが、大学の移転によるリニモ利用者の減少や、商業施設の立地に伴う道路渋滞の発生が懸念されるなど、沿線の地域づくりにおいて、様々な課題もある。

本日の会議では、地域づくりの現況について報告するとともに、考えられる課題やその対応策などについて、様々な分野でご活躍の委員の皆様からご意見を賜りたい。

### 2 議題

#### （1）リニモ沿線の地域づくりに向けた取組について

○事務局から資料 1～7 の説明。

#### 【委員・事務局発言要旨】

##### ○瀬口委員長

昨年度の報告から一定の進捗がある案件もあれば、まだ具体的などころには至っていないものもあるが、ご意見があればお願いしたい。

##### ○松宮委員

資料 1（リニモ利用者数の推移）に関し、券種別の乗降者数で、平成 22 年度から 23 年度にかけて定期券外の利用者が若干減ったが、平成 23 年度から 24 年度にかけては再び増加するようになったことが、少し大事な点かと思う。実際に、どの駅で、どの

区間で、定期券外の利用者が増えているのかといったデータは調べているか。

この部分の利用が増えている、この部分の利用が減っているなどが、もしわかれば、目標も立てやすくなるかと思う。わかっているのであれば、お聞かせ願いたい。

#### ○愛知県交通対策課（寺田補佐）

駅ごとの利用の状況であるが、資料1（リニモ利用者数の推移）左側の乗降者数について、年度ごとにまとめた表を記載している。これを見ると、だいたいどの駅での利用者の伸びが大きいかわかる。ただ、詳細な分析をすると、愛知高速交通㈱からデータを取り寄せる必要がある。

今のところ、どの駅で、どのイベントによる影響が大きいかは、その時々は見ているが、総体として、年間利用者数への影響の要因までは分析が進んでいない。

#### ○井沢委員

定期券利用者は、大学の入学者数により影響を受ける部分が多いかと思う。リニモの定期利用者は毎年増えているが、愛知工業大学もこの2、3年志願者が非常に増えており、入学者も毎年増え定員を上回ってきているので、定期券を購入する学生の増加が、リニモの利用促進の一助となっているのではないかと感じる。

#### ○愛知県交通対策課（寺田補佐）

ありがたいと思っている。定期券利用者については、沿線の学校のシャトルバスの運行などによっても、年々増えてきている。愛知学院大学と中西学園さんに、長久手古戦場駅から運行していただいているバスをご紹介したい。

シャトルバスには、Aダイヤ、Bダイヤとあり、Aダイヤが通常の授業期間中、Bダイヤが大学の長期休みのときに運行している。人数はもちろんAダイヤの方が多いが、例えば平成22年に一日平均で965人の学生さんに使っていたのが、平成23年には1,254人に伸び、平成24年にも1,302人に伸びており、平成23年から平成24年に向けてもまだ3.8%増えている状況である。そのようなこともあり、長久手古戦場の駅については、非常に利用者の伸びが著しい状況になっている。

ただ、先ほどのご質問にもあったとおり、定期券外の利用者となると、イベントへの参加であるとか、あるいは買い物の方、そういった突発的なご利用が多いと思うので、そういった点については、もう少し分析が必要だと思っている。

#### ○瀬口委員長

愛知学院大学さんをはじめ、各大学にご協力いただいております、より多くの人に乗車していただけるとよいかと思う。

#### ○土居委員

資料1（リニモ利用者数の推移）の一番上の数について、沿線の自治体、あるいは大学などの積極的な活動により、右肩上がりでも年間の利用者数が695万人ということだが、最終的には、年間利用者数についてどの程度の目標を掲げられているのか、教えていた

だきたい。

これから、全国都市緑化フェアの開催や、イオン、イケアの開業など、利用者が増える要素が多くあるので、このあたりで、例えば年間利用者数の目標を 1,000 万人ぐらいに設定し、積極的に PR されたらどうかと思った。

特に今年はリニアが非常に注目を浴びていることもあり、リニアに負けないぞというぐらいの意気込みを持って、3年から5年計画でより利用促進を図ってはどうか。

#### ○愛知県交通対策課（寺田補佐）

資料1（リニモ利用者数の推移）の真ん中にある表の、右側の段のとおり、平成24年度は1日平均で19,100人の方に、利用していただいている。

リニモの利用者数の今後の見通しについてであるが、愛知高速交通㈱で、今年の3月までに、経営改善計画を作っており、その中で、今後の利用者数について見通しを立てている。この見通しは、今までのように利用促進も行い、また、既に着手している沿線開発も含めて想定した数字であり、1日当たりの人数で出している。こうした計画に基づき、今後も施策を推進していきたいと、愛知高速交通㈱と我々は考えている。

#### ○内田委員

先ほどの発言でも紹介があったが、愛知学院大学では平成22年度から、長久手古戦場駅から無料シャトルバスを運行している。これは、中西学園さんと共同運行という形であり、85%が愛知学院大学、15%が中西学園さんという負担の割合となっている。

資料1（リニモ利用者数の推移）の数字を見ていただくとわかるように、平成22年度と平成24年度を比較すると、60%以上の乗降者数の伸びがある。今年度、名鉄バス㈱の加藤部長さんから、これ以上バスを出さなくてもよいかというお申し出もあったが、まだシャトルバスの利用者が増えているということで、もう1年を様子見ようということで、なんとか凌いでいる。

ただ、来年度から、愛知学院大学では、ビジネス系の3学部を名城公園の東側に今建設中であるキャンパスに移し、平成26年度から3年にわたり段階的に学生が移動することとなるため、この数字を注視していきたい。

#### ○亀倉教授

名古屋商科大学は公園西駅に近くに位置し、車の動線に関心がある。宅地開発が現在大学周辺で行われており、渋滞が非常に気になっている。モリコロパークで大きなイベントがあろうものなら、ものすごい渋滞が起こっているが、さらに公園西駅の開発、イケアの進出などが加わると大変なことであるので、前もってどういう影響があるか考え、対応する必要がある。一方で、これはリニモの利用者の促進につながる可能性があるので、総合的にこの地域の発展をお考えいただきたい。

#### ○鈴木委員

亀倉先生のお話にも少し関わるが、イケアができたとして、イケアで組み立て家具などを買われる方は、おそらく荷物が大きいことから、まず車で行きたいという方がほと

んどではないかと思う。イオンもどのようなお店が入るのかわからないが、食料品を1週間分まとめて買うとなるとやはり、リニモではなく車で乗り付けたいという方が多いのではないかと。そうすると、この2つの商業施設の集客は単なる道路渋滞を巻き起こすだけで、リニモの乗客数の増加につながらないのではないかと心配している。

今日のチラシにエコモビというものがあるが、出店をリニモの利用促進につなげるため、商業施設さんにもエコモビでいらっしゃった方には特典を出すなど協力していただくなど、今から戦略的に取組みを実施していく必要がある。

ICカード導入に対してもリニモは消極的であるが、今は飛行機でも鉄道でも、企画切符が花盛りで、通常の料金のディスカウントは当たり前になっていることから、そういうものも含めて、知恵を絞り利用促進につなげるようにしていただきたい。

### ○長久手市（加藤区画整理課長）

いただいたご意見はもったもであると思う。現在、交通の問題であるとか、周辺の環境、それから店舗計画などの調整を商業事業者と実施しているところである。リニモ利用者増も期待できる中で、それに伴う車両のアクセス増加の懸念も当然ある。できるだけ、公共交通機関に転化できるような仕組みも考えていきたいということは、両事業者さんとも調整の中でおっしゃっていただいている。

例えば、リニモを使って来店された方に何かインセンティブを与えるような仕組みについて、先ほど出たICカードも一つのツールなのかなと思う。また、イケアは、神戸のポートライナーの駅前に店舗があり、鉄道事業者との連携も仕組みの中で取り組んでおり、経験もある。そういった効果的な実績も、この長久手地域で取り入れていただき、できるだけお客様にはリニモに乗って来店してもらい、車の軽減も図っていただけるようにしてまいりたい。

### ○瀬口委員長

今、鈴木委員からご指摘のあったように、鉄道事業者と連携することを、出店者にも強く言っていただき、実践していただけたらと思う。

### ○島田委員

ハードの不十分さは、料金、あるいは料金システムでそれを補っていくのが大事な柱になると思う。ICカードの話が出たので、もう一つ具体的な検討課題として、モリコロパークの駐車場の料金の話を考えていただきたい。

モリコロパークへ行こうと思った場合、明らかに、車で行ったほうが安く済む。例えば、休日だけモリコロパークの駐車場で割り増し料金を取り、車の利用者をコントロールしていくことは検討できないか。ただ値上げをするのではなくて、増えた収入分はリニモの活性化、あるいはリニモへの転換を促すために使うと良い。

### ○瀬口委員長

瀬戸市のイベントパンフレットを見ると、瀬戸市のイベントの広域図が入っていて、その中にリニモからのアクセスが記載されていない。是非、これを書いていただき、ご

協力いただけたらと思う。

## (2) リニモ沿線地域づくりの状況・課題について（意見交換）

○事務局から資料8（意見交換参考資料）の説明

### 【委員・事務局発言要旨】

#### ○亀倉教授

大学の移転に関連し、名古屋商科大学は、この地域にとどまると学長が常日頃話している。学生たちは授業の時間に合わせて登校し、授業が終われば帰り、かなりムラのある動きをするが、学生の動きが通勤の車の人々と重なったときに、より一層大きな渋滞につながる事がある。そういった問題の解決を考える際に、豊田市で進めている環境モデル都市推進、これの成果を活用し援用できる可能性があるのではないかと、という期待をしている。環境に優しい移動手段の推進を今後長久手市の中でも進めていき、住宅開発にも活かされるとよい。

また、こういったリニモ沿線地域づくり会議の場で、各市で行われる取組みが、ばらばらに報告されているような感が若干するが、今後ますます連携し、各地域で持っている有用な資産をつなぎ合わせた形で考えていくと、様々な問題に対する解決の糸口が見えてくるのではないかと思う。

さらに、大学の動き自体よりも、日進・長久手などで進んでいる住宅開発の方が、ハード面というリニモ利用者数の課題になるかと思う。毎年8月にリニモの利用者数が落ち込むが、開発によって新たに地域に住まわれる方々に、いかにリニモに乗ってもらうかということが鍵になるかと思うが、豊田市さんの環境モデル都市推進は非常に大きなヒントを与えてくれるのではないかと思う。

#### ○瀬口委員長

海外などでは、公共交通機関のピーク時を避けた時間帯は利用料金を安くするという取組みがある。交通力を増強するよりも、均等化した方がベターという考えである。

年間の授業時間が決まっているので難しい部分もあるが、大学などでも10時から授業を始めて、10時から料金が安くすると皆リニモを使うかもしれない。そういった施策の実施を考えると、やはりICカード化は避けて通れないと思う。

#### ○別所委員

先ほどから交通渋滞という話がかかり出ているが、商業事業者以外に、住宅開発が進めば、当然その分渋滞がさらに増えるということになるかと思う。しかし、我々開発ディベロッパーの立場から考える限り、やはり駅近に商業施設があり、その周りに住宅が張り付くというのが、開発をするにあたっての最重要ポイントとなり、住宅の増加に伴いリニモの利用が増えるのは当然の結果になってくるかと思う。

お尋ねであるが、長久手の2つの土地区画整理事業の住宅開発をするに当たり、保留地が出てくるとは思うのだが、現時点でのお考えで結構であるので、全体のだいたい何

割ぐらいが、保留地として売り出される予定か、パーセンテージを教えてください。  
それを我々開発ディベロッパーが住宅を開発していくパターンになるかと思う。

#### ○長久手市（加藤区画整理課長）

土地区画整理事業で生み出される保留地についてであるが、長久手中央地区では、組合施行なので順次処分をされていくことになるかと思うが、面積でいうと 47,000 平米ほどである。ただ、47,000 平米のうち 1 から 2 ヘクタールぐらいは、イオンさんが買われる保留地も含まれているため、それを除いた部分になるかと思う。それから、公園西駅地区については、保留地面積は、23,600 平米ほどである。この中にもイケアさん取得していただく分があり、まだ換地設計が進んでいないため、どれだけの面積になるかわからないが、概ね 1 から 1.5 ヘクタールになるかと思う。それを差し引いた部分が、もっぱら保留地になるだろう部分である。

#### ○石黒専務理事代表理事

大学との連携が、リニモの利用者数を大きく左右すると思っている。

特に長久手には若者が魅力に思う店舗がたくさんできていると思うが、そうした施設への駅からのアクセスがないように思える。例えば愛知淑徳大学の周りには多くのお店ができており、おそらく巡回バス等が低料金で走っているかと思うが、そういったアクセス手段の PR があまりされていないと感じる。なので、どうしても車でお店へ行ってしまうというのが現状であると思っている。

有名店とまではいなくても、ホームページなどでお店が紹介されると、結構皆さん関心を持ってお店に出かけられるので、そういった際に併せて巡回バスなどによるアクセス手段の PR を行う必要がある。

また、今、市民農園が盛んであり、農業体験なども行われているが、公共交通機関を使って現地へ行く場合、例えば着替えはどうするのか、収穫物はどうするのか、といった不都合な点もあり、多くの方が車で出かけるというのが現状である。最近、農業により親しむということで、さまざまな方が興味を持っておられるので、そういった点で、道路を作ることは簡単にはできないが、例えば着替えができる施設を作ることなどにより利便性が整えば、公共交通機関で来られる方も増えると思う。また、学生さんで車の利用する方も多々おられると思うが、そういった観点からも利便性が整えば、公共交通機関の利用が増え、渋滞が少しでも緩和されるのではないだろうか。

住んでいる人にとっても、いつも周りが渋滞しているのは問題があるかと思うので、全体を見て対策を考えることと、PR を効果的に行う方法を考えたら良い。

#### ○瀬口委員長

全体を見て対策を考えた方がよいというご意見をいただいた。学生さんから駐車場料金を取ると、他所の大学に受験生が流れてしまうこともあるかもしれないが、それぞれの立場で、地域全体として、車と公共交通機関のシェアの配分と、地域の交通の需要を増やすことについて、まず両方で天秤をかけながら、総合的なことを考えなければいけないと思う。

ただ、最初に交通の需要を増やしてしまうと、増えた後にシェアを変えようとしてもなかなか難しいこともある。名古屋の都心部で、商業店舗などに訪れる車が集中して大変だったという時期があったが、公共交通機関での来場者の利便性を増すことを目的として、百貨店と商店街が共同で、購入した商品の宅配事業を実施した例がある。このように、総合的に考えていくことが確かに重要であると思うので、是非、事務局にもそういった視点を持って考えていただきたい。

#### ○清水委員

今年、資料3（リニモ沿線地域づくり調査研究会事業）にあるように、リニモ沿線研究成果発信事業ということで、「大学研究機関と地域の連携事例のリニモ沿線地域への応用可能性」に調査費用をいただき、調査を進めているところである。

平成21年度の研究会事業で、学生によるリニモ沿線地域調査・提言事業が行われていたとのことであるが、何か具体的な成果というか、あるいはまとまった資料はあるか。

#### ○愛知県地域政策課（日比野主事）

平成21年度の、学生によるリニモ沿線地域の調査・研究・提言事業についてであるが、事業の内容としては、リニモの主要な利用者である学生目線でのまちづくりの提言の吸い上げを行うため、リニモ沿線の大学生グループ・研究室を対象に、地域づくり活動についての企画を募集し、支援したものである。応募いただいた中から3大学の学生グループに、リニモ沿線地域に関する調査・研究活動を実施していただいた。その内の1件は、南山大学のグループに活動してもらったものであり、「学生のリニモ利用を促進するまちづくりのあり方」である。内容は、例えば学生にとって、リニモ沿線でどのような施設のニーズがあるのか、どのようなイベントが有効かなどの、アンケート調査を行い、それを踏まえリニモ沿線地域に対する提言を資料にまとめたものである。なお、成果物については、愛知県地域政策課のホームページで公開している。

#### ○井沢委員

学生による取組みというのは、非常に良いと思っており、愛知工業大学も「大学コンソーシアムせと」に加盟し、似た取組みを実施している。

お尋ねしたいのは、リニモ沿線地域づくり調査研究会の事業は単年度のものだけで、2年間実施するなど、継続の観点は全くないのか。

#### ○愛知県地域政策課（日比野主事）

リニモ沿線地域づくり調査研究会の毎年の事業について、継続を前提にしたものはあまりなく、毎年単発でやってきたのが現状である。もし、継続でこういったことをやってはどうか、などのアイデアがあれば、継続を前提として事業を実施することももちろん可能である。

## ○井沢委員

予算の問題もあるかとは思いますが、瀬戸の大学コンソーシアム事業の中には4年、5年続けて実施するものもあり、継続により効果が出ているものもある。もし今後、事業を募集する機会があれば、継続して実施できることを打ち出すと、応募もしやすく、最終的に良いものができるのではないかと。

## ○瀬口委員長

今までは単年度事業が中心であるとのことだが、資料3(リニモ沿線地域づくり調査研究会事業)にある「リニモ沿線合同大学祭」は、単年度だが、昨年度に引き続き今年度も実施することになっている。また、地元の民間の団体の方でも、2年継続しているものがある。今のお話にもあったとおり、1回実施してみて、よければ継続事業にチャレンジできるとか、そういった工夫も検討いただけたらと思う。

## ○島田委員

この地域は各大学の学生が連携して、地域の人たちと一緒に、ものすごい活動をしてらっしゃると思う。それから、大学コンソーシアムも進んでいるということで、地域の住民に対するコンソーシアムサービスといったものにも期待しているが、この地域での連携の場合、活動の実行がかなり進んでいる状況にあり、ソフト面よりも、ハード面を少し考えていただく必要があると感じている。松宮先生からも、度々学生のたまり場を、というご提言をいただいているが、ハード整備を検討いただきたい。

また、事務局から、構想を策定してから4年になり一つの節目の年に来ているというお話があったが、これまでの取組みの評価を実施する時期に来ているのだと思う。評価のポイントとして、一つは、広域的な交通サービスの提供による、ネットワーク効果はどうだという点、もう一つは、地域経済に与えた影響だとか、自治体財政に与えた影響、こういうものが、まさに調査・研究の課題ではないかなと思っている。地域経済や自治体財政に非常に大きな効果があるのであれば、多少税金を出してもよいのではないかと、そういう検討材料にもなるかと思うので、一つ課題になると感じている。

もう一つの課題は、それをどう情報発信していくかという点である。交通からの町づくりを考えると、この地域では全国でも数少ない取組みが行われてきて、成果、あるいは課題も含めて情報発信をしていくとよいのではないかと。イベントの情報発信なども大事ではあるが、沿線の活性化の取組みをしっかりとやってきたということを、しっかり発信していくことが大事になるのではないかと。

## ○長久手市(加藤区画整理課長)

市民のたまり場ということで、長久手中央地区は市の総合計画にも位置づけているリニモテラス構想というものがあり、古戦場駅前の空間づくりに、例えば観光、大学学生さんも含めた交流、文化、行政機能など、そういった空間づくりをプロジェクトの中に盛り込んでいる。運営主体も含めて今後検討してまいりたい。



## ○島田委員

リコモテラスには大いに期待をするところであるが、スケジュール的にはかなり煮詰まっていなければならない時期に来ていると思う。もし、何らかの声を反映するような機会があるのであれば、是非考えていただきたい。

## ○長久手市（加藤区画整理課長）

ソフトの部分は政策秘書課やたつせがある課などの協働を担う部局で検討しており、具体的に固まっていないのが現状である。我々はハードを整備する部署であるが、こういうことをしたいから、こういう設備が必要だという話にもなってくるので、事業の進捗と合わせて取組んでまいりたい。

## ○瀬口委員長

リコモテラスは、かなり肝になるかもしれないので、狭い範囲で考えないで広域的にしっかり考えていただけると良いと思う。大学の連携活動はどうなっているのか、リコモテラスの中でどの部分を引き受けられるのか、新しく作るとしたらこういうものが良い、などを考えできるだけ理想的なものを実現する必要がある。何かできたというだけでは、情報発信にはならない。

また、取組みに関する情報発信、評価の情報発信であるが、ただの情報発信ではなく、実施した取組みについて、どういう視点で新しさがあるのか評価をつけ情報発信をする。ただ取組みを評価してもらうのではなく、しっかりと客観的に評価できるものを提供していくことが大事であるので、この点を少し考えていただけたらと思う。

## ○松宮委員

今までのお話に関連し、ご検討いただきたい点が2点ある。1点目は継続事業ということで、合同大学祭は、既にTシャツやパーカーを作っており、学生も愛知県立大学だけでなく、愛知淑徳大学の学生さんも、愛知学院大学の学生さんもおり、今後継続していきたいという形で新メンバーも募って活動しているので、今後も支援の継続を考えていただけたらと思う。そのためには、やはり島田委員がおっしゃっていたハード面について検討していただきたい。今はミーティングを愛知淑徳大学とか、愛知県立大学とか、持ち回りで転々としているが、今の状況だと、リコモとは関係なく大学ごとのつながりになってしまう。以前、学生が中心となり、藤が丘の駅でコーヒーを販売していたが、古戦場駅でそういった集まれる場があれば、リコモも活かすことができるのではないかなと思う。

2点目は情報発信について、8月、2月、3月がリコモの利用が減るということであるが、この時期は小学校が休みになり、モリコロパークのプールに行くなど観光客や行楽客は増えている時期だと思う。そこで、モリコロパークに車で来て、そこからリコモに乗ってトヨタ博物館へ行くなど、モリコロパークを起点にして、別の場所に行けるといった情報提供があれば、モリコロパークを拠点として、瀬戸なり豊田なりの場所に行く人もできるのではないかな。1日ばかりでモリコロパークに遊びに行くという人もいるかなと思うが、その様に、瀬戸にもいける、トヨタ博物館にもリコモを使っていけるといった

ように、藤が丘駅以外を出発点としたPRを考えれば、8月、2月、3月の乗降客の増加にも寄与すると思ったので、ご検討いただきたい。

## ○土居委員

沿線に大学が多いので、学生を対象にしたリニモの活性化施策が多いが、今は高齢化社会ということもあり、車を運転するよりも公共交通機関を利用するような高齢者に、いかにリニモを活用してもらうか、そういったテーマも面白いのではないかと思う。

例えば豊田市では、毎月8日に拳母神社という駅前の神社に、いろんな縁日が出る。古着屋さんだとか、地元の漬物屋など、様々なものを目当てにたくさんの高齢者の方が来られ、食べたり、飲んだり、買い物をして帰り、高齢者の方々が愛知環状鉄道などの公共交通機関に乗って、廻るといったことに喜びを見出せている。

先ほど説明の中にあつた、十日の花という長久手市の伝統的な行事があるようだが、そういったものも含め、広域的に、それも高齢者を対象にイベントのPRなどを行えば、高齢者がリニモを活用する希望も出てくるのではないかと思う。

また、少し気になるのが、長久手グルメマップを少し見たのだが、ここに載っているのが長久手市役所周辺の駅から遠いところばかりである。なので、イベントに併せ、駅からこういうお店を回れるよう、巡回バスなどの手段を講じれば、そういった高齢者の方々もリニモを活用して楽しめるのではないか。

こういった高齢者の視点での研究を行ってはどうかと感じた。

## ○瀬口委員長

土居委員の話を伺いながら、イケアとイオンができるのであれば、その中に高齢者が過ごせる空間を作り、高齢者がリニモで来て一日楽しめるといったことができる面白いかもかもしれないと感じた。歴史・文化を活用してもよいと思うし、夏は暑いので、クーラーが効いている商業施設の中で過ごすことは、一日家の中で過ごすよりは良い。学生さん達にもアルバイトができるチャンスができるのだろうと思う。

また、リニモ沿線地域で活性化施策に一生懸命取り組むのは、リニモのためにやっているのではなく、リニモ沿線にある大学がいかにブランド化でき、学生さん達もここで過ごすことがいかに良いことか、あるいは、長久手市、このリニモ沿線地域に住んでいる方たちが、ここに住むことがいかに快適か感じられるようにするためであり、結果的にリニモのためになるということで取り組んでいる。その両方を視点におきながら、委員の皆様のご意見を参考にし、各県市とも、取組みを進めていただきたい。

## ○松宮委員

高齢者ということでお話があつたが、ちょうど今年、長久手市が地域福祉計画を作成しており、その地域福祉計画の調査を2万人の方を対象に実施した。福祉の調査であつたので、特に高齢者から、リニモに待合室が必要であるなど、交通機関への要望が非常に多かつた。

もし商業施設ができたら、先ほど瀬口委員長がおっしゃっていたように、高齢者にとっても居心地のいいような場所を作ると、やはりリニモにとっても、利用の促進も含め

て大きな意味を持つと感じる。

### 3 その他

次回のリニモ沿線地域づくり会議は、来年3月頃に開催する予定。

(閉会)